



## 術後合併症予防のための入院前口腔ケア（患者さん用）

入院中や手術後は、『お口の中の細菌が気管へ侵入することによる肺炎の発症』や『お口の中の細菌が他臓器へ感染すること』を予防する必要があります。

### 《手術前にお口を清潔にすることで予防効果が期待できる疾患》

#### ① 術後の肺炎

お口は、呼吸器と消化器の『入り口』です。そのため、侵襲の大きな消化器や、呼吸器の手術時にお口が汚れていて、お口の細菌数が増えると、手術部位の治癒が遅れるばかりではなく、手術後に肺炎を発症します。

この肺炎は、呼吸機能の低下した方や、高齢の方に多い肺炎です。そして、その原因には口腔内細菌の関与が大きいといわれます。

#### ② 人工呼吸器関連肺炎

ICUに入室する方は、年齢にかかわらず人工呼吸器を付けることで、人工呼吸器の挿管『くだ』と『気管』の間から、お口の細菌を含む唾液が肺に侵入することで肺炎を引き起こします。これは人工呼吸器関連肺炎といい、高頻度に発症します。

#### ③ 感染性心内膜炎：心臓の内側をおおう膜や心臓弁に生じる感染症

先天性心疾患手術や、心臓の弁膜症の手術を受ける方に発症することがある疾患で、口腔内の細菌が原因となることが多いとされています。このように心臓に問題のある方は、歯を抜く場合も注意が必要ですが、入院して手術を受ける場合は、必ず口腔ケアを受けてから入院しましょう。

#### ④ 菌血症

血液中に細菌が存在する状態で、あらゆる臓器に感染を起こす可能性があります。お口の中も粘膜や歯周組織が血管と繋がっているため、入院治療中に重度の免疫力が低下した場合には、口腔内の細菌も原因となります。

#### ⑤ 胃ロウ手術を受ける方への術後の肺炎

お口から食べなくなると、唾液の量が極端に減少することで、お口の中に炎症を起こしやすい細菌の塊が増えてきます。そして、お口を使わないことにより唾液の飲み込みが悪くなり、唾液が気管に入りやすくなります。唾液にはお口の中の細菌が多量に含まれているため肺炎を発症しやすくなります。胃ロウ手術の前後には、1度歯科処置を済ませましょう。そして、朝晩の歯磨きを行い、定期的な口腔ケアを受けましょう。



## 入院をされる方へ

### —術後肺炎・人工呼吸器関連肺炎・菌血症の予防—

- 術後肺炎リスクが高いと思われる方（ICU入室予定者、呼吸機能の低下者、高齢者や開胸手術予定者）
- 化学療法、放射線療法、ステロイドパルス療法等の免疫抑制が想定される方
- 先天性心疾患手術・弁置換手術等で感染性心内膜炎のリスクを伴う方
- 胃ろう手術を予定されている方

手術後合併症は、入院前の口腔クリーニングと特別な口腔ケア用品を利用することにより、お口の清掃、清潔の維持が容易になり、ご自身の口から早期に食事が再開される効果が期待できます。下記用品は個人負担となりますが、快適な入院生活と術後の栄養状態の改善のために、必要な用品の購入をお勧めします。

### 《入院前に準備する口腔ケア用品4点》



肺炎の原因となるお口の細菌を、効率よく除去するハブラシです。吸引をしながら歯ブラシができるため、術後にご自身で歯磨きが出来ない場合にも、肺へ雑菌が侵入しないで、口腔ケアが出来ます。



お口の中が乾燥すると、細菌が繁殖して肺炎を起こす菌が増えてきます。歯ブラシ後にジェルを塗布するか噴霧することで、お口の中が湿潤して、唾液の自浄作用が良くなり、雑菌の繁殖を予防します。